

報 雜

◎人 事

鐵道醫 片 平 年 秋
年俸二千七百七拾圓下賜

(六月二十五日)

敘從四位 正五位勳五等 根 岸 顯 藏
正五位勳五等 根 岸 顯 藏

特旨ヲ以テ位一級被進

(六月二十九日)

任陸軍軍醫中尉 藤 原 之
任陸軍軍醫少尉 前 田 犬 千 代

(六月二十九日)

岡山醫科大學助教授 小 田 大 吉
陸軍高等官三等

岡山醫科大學助教授 日 下 連
陸軍高等官六等

(七月一日)

岡山醫科大學助教授 大 田 原 一 祥
本俸八級俸下賜

岡山醫科大學助教授 山 崎 三 省
本俸十級俸下賜

(七月六日)

正五位 根 岸 博
敘勳四等授瑞寶章

從五位勳六等 堤 元 齡
敘勳五等授瑞寶章

從五位 安 原 節 太 郎
正七位 林 昌

從五位 林 香 苗
敘勳六等授瑞寶章

(七月六日)

陸軍軍醫大佐從五位勳三等 平 野 林
任陸軍軍醫少將

陸軍軍醫中佐從五位勳四等 岸 本 宗 治 郎
任陸軍軍醫大佐

陸軍軍醫少佐正六位勳四等 森 定 惠
陸軍軍醫少佐正六位勳四等 大 橋 要 人

任陸軍軍醫中佐 (七月十四日)

○松原良一君 財團法人倉敷中央病院長兼婦人科
醫長本多操氏は今回辭任せるを以て同院副院長た
る同君は今回其後任として同病院長に就任せられ
たり

○橋本 健君 豫て吳市濟生會病院外科部長とし
て勤務中の同君は今般尼ヶ崎共立病院長として就
任せられたり

○岩崎 武君 豫て臺灣總督府臺中醫院に勤務中
の同君は今般臺灣總督府基隆醫院外科に轉勤せら
れたり

○上村良一君 豫て岡山醫科大學石山外科教室に
勤務し居られし同君は先般本縣兒島郡日比町玉造
船所病院に轉勤せられたり

○木村敏三君 も豫て岡山醫科大學石山外科教室
に於て研究し居られしが先般本縣久米郡吉岡村石
戸病院に轉勤せられたり

○吉村久雄君 は豫て岡山醫科大學津田外科教室
に勤務し居られしが先般本縣矢掛町々立病院に轉
勤せられたり

○井上 佐君 は豫て山口縣岩國町岩國病院に勤
務し居られしが今般其職を辭し再び岡山醫科大學
産科婦人科教室に於て研究に従事せられたり

○木戸幸雄君 豫て岡山醫科大學産科婦人科教室
に勤務し居られし同君は今般吳市濟生會病院に勤
務せられたり

○五島 洋君 は豫て岡山醫科大學産科婦人科教室に勤務し居られしが今般山口縣岩國町岩國病院に勤務せられたり

○永松休光君 多年八幡製鐵所病院に勤務し居られし同君は今般其職を辭し八幡市荒生田町1丁目に於て開業せられたり

○徳重一志君 豫て岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室に勤務し居られし同君は今般辭職し鹿兒島市鴨池町に於て開業せられたり

○三宅慎治君 は豫て岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室に勤務し居られしが今般其職を辭し西宮市森貝郵便局前に於て開業せられたり

日浅靜逸君 昭和10年岡山醫科大學を卒業し同學眼科教室に勤務し居られし同君は昨年來健康を害し靜養に力められしも其效無く本月14日遂に永眠せられたりと寔に痛惜に堪へず謹みて茲に弔意を表す

◎學位授與

越智昇一君は豫て論文を京都帝國大學醫學部に提出し學位を請求し居られしが本年6月22日同學より醫學博士の學位を授與せられ又土井眞一、藏本積、長谷川卓郎の3君は論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られしが土井、藏本兩君は本年5月16日の教授會を通過し本年6月27日、長谷川君は本年6月20日の教授會を通過し本月27日孰れも醫學博士の學位を授與せられたり其主論文及び參考論文は次の如し

越 智 昇 一 君

主 論 文

肺炎双球菌ノ免疫及ビ皮膚反應ニ關スル實驗的研究

其1. 肺炎双球菌ノ自働的免疫ニ關スル實驗的研究

第1—第7編 皮膚科紀要第28卷第4號(昭和11年10月) 第30卷第4號(昭和12年10月)發表

其2. 肺炎双球菌ノ他働的免疫ニ關スル實驗的研究

第1—第4編 皮膚科紀要第31卷第1號(昭和13年1月) = 第1編ヲ同第31卷第15號(昭和13年5月) = 第2編ヲ發表以下同雜誌ニ逐次發表ノ豫定

其3. 肺炎双球菌ニヨル皮膚反應ニ就テ

第1—第3編 未發表

參考論文

第1 肺炎双球菌ノ自働的免疫ニ關スル實驗的研究補遺

第2 顔面癩風ノ1例

第3 皮膚萎縮症ノ1例

土 井 眞 一 君

主 論 文

「ラヂウム」放射線ニヨル聽器病理ニ關スル實驗的研究 (追テ本誌ニ發表ノ豫定)

參考論文

1. 口蓋扁桃腺内横紋筋ニ就テ (大日本耳鼻咽喉科會々報第44卷第1號ニ發表セリ)

2. 海痕内淋巴囊内腔ニ遊離セル細胞ニ就テノ一考察 (追テ本誌ニ發表ノ豫定)

3. 「プテリ」ノ豫後竝ニ療法ニ就テ (高原滋夫、登坂清、土井眞一共著) (追テ大日本耳鼻咽喉科會々報ニ發表ノ豫定)

4. 4箇ノ椀ヲ有スル鼻結石ノ1例 (日本醫事新報第743號ニ發表セリ)

藏 本 積 君

主 論 文

非經口的輸入卵白ノ運命ニ關スル研究

第1編 卵白ノ血管外消失ニ及ボス非特異性
蛋白質注入ノ影響ニ就テ (追テ本誌ニ掲載
ノ豫定)

第2編 「レ」線紫外照射及ビ緩衝液、葡萄糖
液注入等ノ卵白ノ血管外消失ニ及ボス影響
ニ就テ (追テ本誌ニ發表ノ豫定)

第3編 植物神經、甲狀腺及ビ「ベプトンシ
ョック」等ノ卵白ノ血管外消失ニ及ボス影
響ニ就テ (追テ本誌ニ發表ノ豫定)

第4編 血管内注入卵白ノ臟器内分布ニ就テ
(追テ本誌ニ發表ノ豫定)

參 考 論 文

- 其1. 發熱ト異種蛋白攝取 (日本內科學會雜誌
第19卷第5號ニ發表ス)
- 其2. 實驗的發熱時ニ於ケル網膜織内被細胞系
統機能及ビ白血球像ニ就テ (本誌第44年第
1號ニ發表ス)
- 其3. 幽門閉塞症狀ト胃痛ト伴ヒシ胃「ポリ
ープ」ニ就テ (「グレンツゲビート」第6年第
12號ニ發表セリ)
- 其4. 網狀織内被細胞系統ト異種蛋白攝取 (日
本內科學會雜誌第19卷第5號ニ發表セリ)

長 谷 川 卓 郎 君

主 論 文

體液酸鹽基平衡ト膽汁酸トノ關係ニ就テ

- 其1. 尿中鹽類排泄ニ及ボス膽汁酸ノ影響
(外字生化學雜誌第18卷第3號ニ發表セリ)
- 其2. 胃液酸度及ビ鹽類食量ニ及ボス膽汁酸
ノ影響 (追テ岡山醫科大學歐文業府ニ發表
ノ豫定)
- 其3. 胃液酸度ニ及ボス脾臟ノ影響 (追テ岡

山醫科大學歐文業府ニ發表ノ豫定)

其4. 膵脾及ビ膽汁酸ノ腸液「アルカリ」度ニ
及ボス影響 (追テ岡山醫科大學歐文業府ニ
發表ノ豫定)

參 考 論 文

- 1. 脾臟剔出犬ノ糖同化作用ニ及ボス膽汁酸ノ
影響 (追テ岡山醫科大學歐文業府ニ發表ノ豫
定)
- 2. 白鼠糖同化作用ニ及ボス「ステロヒヨレン」
酸ノ影響 (追テ岡山醫科大學歐文業府ニ發表
ノ豫定)
- 3. 黑鯛ノ膽汁酸ニ就テ (追テ岡山醫科大學歐
文業府ニ發表ノ豫定)

◎軍醫候補生大募集

陸軍省にては時局に鑑み昭和13年9月採用すべ
き軍醫候補生として約400名を募集する事となり
次の如く告示せり

- 1. 採用人員 約400名
- 2. 志願者の資格及年齢 醫師法第1條第1項各
號の1に該當する者にして昭和13年3月31日
に於ける年齢32年未滿のもの
- 3. 願書類の提出 昭和13年8月10日迄に到着
する如く軍醫候補生志願票に戸籍謄本 (願出の
際交付を受けたるもの) 及學校卒業證明書 (醫
師法第1條第1項第2號に該當する者に在りて
は合格證書寫) を添へ陸軍部外よりの志願者に
在りては之を志願者現住地所管の師團長又は軍
司令官に、陸軍部内よりの志願者に在りては之
を所屬部隊長に提出すべし尙學校教練檢定規程
に依る教練の檢査に合格したる者に在りては同
規程に依る證明書を添附すべし
軍醫候補生志願票用紙は志願者現住地所管の師
團司令部若は軍司令官又は聯隊區司令部に請求
(郵送の場合は3錢切手封入)すべし

1. 詳細は昭和8年陸軍省令第2號陸軍衛生部士官の補充及現役期間の臨牀特例に關する件を参照すべし

~~~~~

◎短 信

別項の如く軍醫少將に昇進せられたる中支派遣軍  
〇〇部隊軍醫部長平野林君より次の短信あり  
(前略) 出動地頃日炎熱甚しきも神佛の御加護  
に依り將兵一同恙なく士氣旺盛にて御奉公致し  
て居りますから御安心下さい。(後略)

~~~~~

◎正 誤

本誌前號雜報欄に於て榮原正君は岡山醫科大學津
田外科教室を辭し開業の旨記載せしも右は誤聞に
付取消す

獨逸の外科學界を見て

日本赤十字社兵庫支部診療所外科

醫學博士 渡 邊 傳 二

(本稿の要旨は昭和13年6月5日、岡山醫
科大學に於て開催された第3回中國四國外科
集談會席上で演述せるものである。)

内 容 目 次

1. 獨逸外科學界に於ける人事消息
2. 外科教室見學
3. 手術室雜觀
 1. 肺結核外科の概見
 5. 腦外科の概見

獨逸外科學界に於ける人事消息

獨逸外科學界に於て吾々に最も馴染の深い
Lexer 教授は停年にて ミュンヘン 大學を引退後、
引續き ミュンヘン 市の市立 Städtisches Kranken-
haus Schwabing に在職してゐられまして、小生
が昨年7月其のクリニックを訪問した時は少し健
康を害してはゐられましたが、「君は日本の何處か
ら來たか」等と愛想より話しかけられ、至極好々
爺といふ感じのする老先生で、誠に親切に御得意
の整形手術を見學させていただいたのであるが昨
年暮長逝された。眞に哀悼の至りである。

獨逸外科學會唯一の名譽會長であり、又 Arch.
f. kl. Chir. の編輯者の1人であつた Körte 教授も
Lexer 教授と相前後して他界された。ライプチヒ
大學の Payer 教授の停年勇退後、其の後任は暫く
缺員で、ハイデルベルク 大學の Kirschner 教授の
轉任の噂もあつたが、キ教授は之を固辭され、結
局 Sudek 教授……ハンブルク 大學の Konjetzny
教授の前任者……の門下である Riedel 教授が後
任に決定した。キール 大學の Anschutz 教授は停